

サポーターの方からのご支援ありがとうございます



今回のご紹介: 株式会社タウンズポスト様

コスト削減となる郵便やメール便の配達事業等を展開している法人サポーターの株式会社タウンズポスト様(福岡県福岡市)は、年間配達数×0.02円(平成 25 年度 120 万円)をカンボジアの教育支援への寄付としてくださっています。代表取締役社長の飯田剛也さんは、「社会貢献活動をはじめから、優秀な人材が集まるようになったし、売り上げも順調に右肩上がりになりました」とおっしゃっていました。ありがとうございます。CIESF では、企業の方々と一緒に、支援企画を作っていきたいと考えております。皆様のご協力お待ちしております。



飯田剛也社長

CIESF に関するイベントのお知らせ

● カンボジア教科書展&教員養成校写真展

- 日時: 2014 年 10 月 1 日(水)~10 月 12 日(日) 9:00~17:00(※土日や平日夜間などの時間変更あり)
 - 場所: 愛知教育大学図書館・アイスペース (無料)
 - 内容: カンボジア教科書の展示/カンボジア教員養成校の様子などの写真展/期間中ミニイベント/カンボジアクッキーとコーヒーの試食会など
- お問い合わせ: CIESF 事務局 03-6418-2480

● 第 1 回 CIESF チャリティボウリング大会 ~みんなの笑顔でカンボジアに笑顔を~

ボウリングを楽しむことを通じて、参加者の交流と「国際社会貢献」を促進することを目的に、第1回チャリティボウリング大会をキリンビバレッジ株式会社様、株式会社フォーバル様のご協力のもと、開催いたします。参加費の一部は、カンボジアをはじめとした途上国の教育支援の寄付となります。どなた様もお誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

- 日時: 2014年10月6日(月) 18:30~21:30 (受付開始 17:30/ゲーム開始 18:30/懇親会あり)
 - 場所: 品川プリンスホテルボウリングセンター
 - 参加費: 1人 8000 円(2ゲーム、靴、懇親会、景品代含む)
- お問い合わせ: CIESF チャリティボウリング大会事務局(キリンビバレッジ株式会社首都圏地区本部 武子(たけし))
電話: 03-5821-4052 メール: event@ciesf.org
※CIESF の Facebook ページでもイベントのご紹介をいたします。

CIESF サポーター募集

- 法人サポーター 1口10万円(寄付から1年間)
- スペシャルサポーター 1口5万円(寄付から1年間)
- 個人サポーター 1口1万円(寄付から1年間)

三菱東京 UFJ 銀行 青山支店(店番 608)普通預金
口座番号 0021714
口座名 公益財団法人 CIESF 理事長大久保秀夫

※ゆうちょ銀行、楽天銀行、クレジットカードでのご寄付については、CIESF ホームページをご覧ください。



CIESF の支援活動は寄付で成り立っています。皆さまのあたたかいお気持ちをお待ちしております。

編集後記 前号は A3 縦書き、今号はこのような仕様変更させていただきましたニュースレターです。はい、編集担当をしている私に、迷いがあります。字が細かくて読みづらいというお声を頂戴したので、また思い切ってレイアウト変更をしてみました。毎月の発行となったので、よりフレッシュな内容をお伝えすることに喜びを感じています。また来月もよろしくお願いいたします。(YM)



CIESF NEWS LETTER

シーセフ ニュースレター 2014 September

第 24 号

公益財団法人 CIESF(シーセフ)は、非営利で国際的な民間の支援団体です。基礎教育の質の向上を主な目的とし、その上で高度人材育成も行い、カンボジアをはじめとした途上国の発展を支援します。

ニュースレターリニューアル 第2号



借越ながら、ご支援くださる方やCIESFに関心を寄せていただいている方とコミュニケーションをとりたいと思い立ち、2010 年 11 月に創刊したニュースレター。毎奇数月に発行していたものを前(23)号よりサイズと発行サイクルを変更いたしました。文字を拡大し、紙面を広げ、隔月から毎月の発行といたしました。このニュースレターを通じて今後、サポーターの方々や途上国の教育支援に興味のある方と、より深くつながっていけたらと考えております。前号からは、CIESF(シーセフ)の活動だけではなく、国内外の教育事情や、サポーター様の取り組みなども紹介しています。より多くの方に読んでいただけるようより努力してまいりますので、これからもよろしく願いいたします。

カンボジアの支援が 6 年目になりました

CIESF がカンボジアで教育支援をスタートしたのが設立された2008年。活動も6年を経過し、少しずつ成果を感じてきました。

● なぜカンボジアだったのか?

1975 年~79 年のポル・ポトの独裁政権によって、カンボジアでは医師や教師といった知識層が抹殺されてしまいました。独裁政権の崩壊後は、わずかに字が読めた人が先生になりました。その影響もあり、現在のカンボジアの先生のレベルは高くないのが現状です。カンボジアは「教育の質」に大きな問題を抱えています。

● なぜ教員養成支援?

カンボジアの学校は、数としてはそれほど少なくありません。問題は先生の数と質です。せっかく学校が建っても、そこで教える先生がいないこともあります。カンボジアの先生は給料が低いため副業をしなければ生活ができません。授業を休んで働きに行ってしまうこともあります。また、カンボジアでは暗記が中心の教育を行っているため、理科の実験経験のない先生、分度器やコンパスの使い方がわからない先生がたくさんいます。このような教育環境で国の教育レベルが上がるのでしょうか? まずは、先生のレベルアップが必要です。

● 「国境なき教師団」って?

先生になる人が 2 年間通う教員養成校に、日本からベテラン教師を派遣しています。カンボジアの教育に適した指導法を教員養成校の教官と一緒に考え、未来の先生のレベルアップに向けた活動をしています。私たちはこの活動を「国境なき教師団」と呼んでいます。先生のレベルアップがあつてこそ、カンボジアの「教育の質」の向上につながっていくのです。



~カンボジア教員養成の現場から その1~

教員養成校では、学生たちが授業内で模擬授業をする際に、緊張して硬い表情のまま授業を行うことが多いです。私は、「授業は笑顔でやりましょう、子どもたちは、先生の素敵な笑顔を見たくて、学校に来るのですから。」と、アドバイスしていました。カンボジア人の教官たちから、私の学生に対するそんな声かけにとっても評価を受けました。日本では、当たり前のアドバイスだと思っていたことが、ここでは、当たり前ではなかったことに気がつきました。(「国境なき教師団」小泉文晁)



フンベン小学校教員養成校の学生たち。高校(一部特例で中学)を卒業後 2 年間、先生になるための勉強をします。



～カンボジア教員養成の現場から その2～

教員養成校の学生たちは、ひとつでも多くの知識や体験を得ようと熱心に勉強しています。これからのカンボジアの教育、そして子どもたちへの教育のことを考え、情熱を燃やしながら学んでいる学生に、指導教官とチームティーチングを組みながら全力で応援していこうという気持ちで日々取り組んでいます。彼らがいい先生になって、教え子たちにいい教育をしてあげることが、この国の教育を変える希望だと思えます。(「国境なき教師団」高橋昭)

特集 教育関連企業と社会貢献②

カンボジアをはじめとした途上国の教育支援を行っている私たち公益財団法人 CIESF は、日本の教育について調べて、考えてみることにしました。現在カンボジアにおいては、学校という建物(=ハードウェア)ではなく、教育の中身(=ソフトウェア)の支援を行っています。具体的には、教師の質の向上を目指しベテラン教師を現地の教員養成校に派遣する「**国境なき教師団**」事業。そしてカンボジア教育省の若手官僚から国の教育政策を担う人材を育成する**教育政策大学院大学**事業です。日本の教育に基づいて、カンボジアに適した形でアドバイスをを行うのですが、基本となる日本の教育について、きちんと知っておかなければならないと思いました。現在、日本の教育も様々な課題を抱えています。その課題解決の課程や方法は、将来、途上国の教育支援に必ず活かせると想定しています。

まずは、教育関連事業を行っている企業の方にインタビューを行い、学校とは違う角度で日本の教育における課題を伺ってみます。また、ご紹介する先は、教育関連企業の中でも社会貢献に力を入れている点に注目し、取材のお願いをした企業です。



カンボジアで活動する「国境なき教師団」の教育アドバイザー

早稲田塾 前編

インタビュー第 2 回目の今号では、「本物に出会い、本物で鍛える」次世代のリーダー育成プログラムを行っている早稲田塾(本部:東京都千代田区/東京・神奈川・埼玉・千葉に全 24 校を展開)をご紹介します。お話を聞かせてくださったのは、秋葉原校責任者の白石恒生(しらいしこうせい)さんです。2 回(今号と次号)に分けてご紹介させていただきます。



お話を聞かせてくださった白石恒生さん

「予備校」ではなくて、人財を育む「塾」



早稲田塾秋葉原校

「早稲田塾は予備校ではなく、その名の通り“塾”なのです」と、白石さん。——「一般的な“予備校”では、偏差値と模試の結果をもとに大学を受験し、合格すれば成功とされます。でもそれは、本当に成功なのでしょうか。たとえば、成績の良い生徒が、超難関大学の医学部を受験して見事に突破。いざ入学してみたら、その生徒は血を見るのが大の苦手な……なんて話、お聞きになったことありませんか? 早稲田塾は、偏差値から大学受験を考えるのではなく、夢を発見し実現するプロセスと、とらえています」

大学側の価値観も変わり、目的意識をもった人財を欲しているから、入試改革が進んでいると伺い、納得。早稲田塾は入試のためのテクニックを学ぶところではなく、人財育成の場であると感じました。公式サイトにある「早稲田塾のビジョン」には、こう記されています。

——今、国内市場は世界へと開かれようとしています。数年後、今の若い世代が社会に出るときは、間違いなく世界と対等に渡りあう力が求められることでしょう。現代の日本は、二度目の「開国」を迫られているのです。そんな激動の時代に必要なのは、大学受験に成功するための「予備校」ではありません。早稲田塾は、開塾以来、一貫して「一生モノのチカラ」を身につけるための「私塾」であることを第一に掲げ、国際舞台に羽ばたく次世代のリーダーを育てています。

次世代のリーダーを育成する、多様なプログラム

早稲田塾には、英語・数学・現代文などの学科試験科目の授業に加えて、「塾育プログラム」というカリキュラムがあります。このプログラムでは、環境、貧困、福祉、医療サービス、教育など、世界が直面する緊急課題＝グローバルアジェンダに取り組みます。ここでは、世界的な権威である大学教授や有識者が直接指導にあたります。例えば、元総務大臣で、慶應義塾大学の竹中平蔵教授による「世界塾」は、毎週日曜日、秋葉原校で開講されています。また、FASID(国際開発機構)とのコラボレーション「FASID 国際開発プログラム」、国連グローバルコンパクトボードメンバー、元富士ゼロックス社長の有馬利男(ありまとしお)氏による「グローバル企業経営塾」など。



元総務大臣で、慶應義塾大学の竹中平蔵教授による「世界塾」

さらに海外特別研修として、「マネジメントの父」と称されるピーター・ドラッカーのスクール(米国カリフォルニア州)との連携で、ディズニーランドの経営について現地で学ぶプログラム、スタンフォード大学での研修、ニューヨーク Time 社でのインターンシップなど、世界初の学びの場が生まれ、塾生の活動範囲は、年々広がっているそうです。こうした取り組みをしている塾に高校生のときに通っていたら、人生が変わっていたかも、と思うことしきりです。

白石さんは語ります。「塾生たちは、日常では体感できない世界に飛び込み、さまざまな場面に直面する中で、世界を広げ、自分と向き合い、果敢に自分のミッションを見つけていきます。さらに早稲田塾のカリキュラムは、自立した個によるチームワークが基本。グローバルアジェンダの解決は、ひとりではできません。リーダーには「場をつくる力」が求められるから、プレゼンテーションの力を徹底して鍛え上げます。

「高校生は十分におとなである」という考えに基づき、高校生だからといって、容赦はしません。大学生、社会人と同等、または以上のことを求めあいます。プログラムを通して湧いてくる様々なアイデアや自分の成し遂げたいことを、「机上の空論」にせず、実現するために——自分の考えを他者に伝え、共感を生み出すところまで磨きあいます。各プログラムの締めは「プレゼンテーション大会」。保護者や友だちなど、聞いてほしい人を呼んで、自分たちの思いを伝えます。

このようなプログラムに参加した塾生たちは主体的ですから、AO・推薦入試をはじめ受験で成功をおさめるのは当然といえます。2013 年は、秋に AO・推薦入試で進学先を決定した塾生たちが、大学進学までの半年間で何か社会貢献活動ができないかと自主的に集合。「早稲田塾公認部活」が結成されました。彼らは毎週、討議やリサーチをくり返し、ネパールの教育支援をテーマに決めました。文房具が不足していると知り、鉛筆を送るとともに、文通による交流「ラブレタープロジェクト」を始動。目標本数は、エベレストの標高である 8848 本。東奔西走して早稲田塾全校を巻き込み、最終的には 1 万本以上を集めました。この活動がネパール大使館を動かし、マダン・パッターライ特命大使が早稲田塾を来訪。感謝状をいただいたと共に、この活動が TBS 番組『ホームカミ』で取り上げられました」

(次号につづく)